

**第69回全国装蹄競技大会 装蹄判断模範解答**

肢 別	前 肢				後 肢					
肢 勢	前望	外向肢勢				後望	狭踏兼外向肢勢			
	側望	後踏肢勢 集合肢勢				側望	前踏肢勢			
蹄 形	左	外向蹄 不同蹄 角度 左<右				左	外向蹄			
	右	外向蹄				右	外向蹄			
歩 様	外弧歩様		先着部位	左	外蹄尖～側	内弧歩様		先着部位	左	外蹄尖～側
			右	外蹄尖～側	右			外蹄尖～側		
疾 病 損 徴	左	冠膝痕、内側管骨瘤、球節(球腱)軟腫、拳踵狭窄、蹄壁欠損(内・外蹄側)、追突痕(外蹄踵)、蹄叉腐爛				左	飛節軟腫、飛端腫、球節(球腱)軟腫			
	右	冠膝痕、球節(球腱)軟腫、拳踵狭窄、蹄叉腐爛				右	飛節軟腫、飛端腫、球節(球腱)軟腫			
多 削 部 位	多削部位		蹄角度の適否		多削部位		蹄角度の適否			
	左	外 内			左	外 内				
	右	内 外			右	内 外				
装 蹄 の 方 針	<ul style="list-style-type: none"> <li>●左右蹄いずれも球節(球腱)軟腫ならび冠膝痕に、左蹄では追突痕に留意して、内蹄尖から外蹄側負面まで多削し、蹄角度を起こすと共に、内外バランスを整え、上弯を多めに設け反回の良いを図る。</li> <li>●左右蹄では狭窄に配慮して蹄支角を削開し狭窄部の剩縁を多めに設ける。</li> <li>●左蹄の内側管骨瘤に留意し、患部の蹄負面の過高に注意して、蹄鉄と負面の間に空隙を設け、緩衝処置を行う。</li> <li>●左蹄壁欠損部は、鑢等を用いてその部を滑らかにし、悪化予防に努める。</li> <li>●左右蹄とも、蹄叉腐爛部を可能な限り削切し、悪化予防に努める。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>●左右蹄いずれも、飛節軟腫、球節(球腱)軟腫に留意し、蹄尖負面を多削して蹄角度の増大に努めると共に、外側負面を多削して内外バランスの調整に心掛ける。</li> </ul>					
記 載 要 領	<p>① 多削部位は原則として下記の記載例に基づいて表現すること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> 一側多削</div> <div style="text-align: center;"> 蹄尖多削</div> <div style="text-align: center;"> 両蹄踵多削</div> <div style="text-align: center;"> 一側蹄踵多削</div> <div style="text-align: center;"> 蹄壁鑢削</div> <div style="text-align: center;"> 現状維持</div> </div> <p>② 蹄角度の適否は下記の記載例に基づいて表現すること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> 現在よりもたてる</div> <div style="text-align: center;"> 現在よりもねせる</div> <div style="text-align: center;"> 現状維持</div> </div> <p>③ 「装蹄の方針」欄には、この馬の判断結果を総合して、重点事項を記載する。箇条書きを基本とする。</p>									